

1. 科目名 (単位 数)	司法・犯罪心理学／犯罪心理学 (2単位)	3. 科目番号	PSMP3359								
2. 授業担当教員	梶原洋生										
4. 授業形態	講義、集団討議、グループ研究・同結果のプレゼンテーション、学生との応答。	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・ 他科目との関係											
7. 講義概要	<p>心理学の立場に依拠しつつ、犯罪や非行の原因を生物学的要因、心理学的要因、社会的要因などから探る。生物学的要因として主にロンブローゾの学説やホルモン・神経伝達物質、条件付けとの関連等について理解し、心理学的要因としては行為障害や人格（パーソナリティ）障害、セルフコントロールとの関連等について理解する。社会的要因としてはアノミー論や分化的接触理論、社会的絆理論、ラベリング理論、競争の激化に伴う格差社会の進展やマスコミ報道が及ぼす影響等について考察する。また、具体的犯罪内容については、暴力犯罪、性犯罪、DV・ストーキング・虐待、窃盗・強盗・放火などの類型に分けて理解する。さらに、犯罪捜査や防犯、犯罪者や非行少年の矯正・保護といった処遇システムについても、心理学のみならず、社会学、司法、精神医学などの立場からの理解を深めながら、犯罪心理学という学問あるいは心理職がどのような役割を果たせるのか、その可能性について考察する。</p>										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 犯罪や非行の原因を生物学的要因、心理学的要因、社会的要因などから説明することができるようになる。 2 犯罪の動機・原因を犯罪の種類と関連させながら理解し、説明することができるようになる。 3 特に、最近の無差別殺人事件や通り魔殺人事件、あるいはストーカー殺人事件に象徴される現代型犯罪の原因・背景について、受講生自らの事例研究・発表を通し、犯罪心理学の観点から理解し、説明することができるようになる。 4 犯罪・非行にかかる刑事司法機関、処遇機関の役割・機能について理解し、説明することができるようになる。 5 犯罪の未然防止や犯罪者の更生・社会復帰の可能性について理解し、説明することができるようになる。 6 犯罪に関係する諸科学、諸理論について理解し、説明することができるようになる。 7 犯罪や非行に関係する職場に就職するための専門的知識を身に付けることができるようになる。 										
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	各自又はグループごとに犯罪事例のレポートを作成し、授業中に発表する。テーマは「修復的司法」を予定している。										
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】 門本 泉 編著『公認心理師の基本を学ぶテキスト 19 司法・犯罪心理学 社会と個人の安全と共生をめざす』ミネルヴァ書房 最新版										
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポートや論文の書き方に関する基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。 2. 分かりやすい表現方法や明瞭かつ論理的な文章を作成する力がついたか。 <p>○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。]</p> <table border="1"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>2 期末試験</td> <td>総合点の40%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>4 日常の学習状況</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加	総合点の20%	2 期末試験	総合点の40%	3 課題レポート	総合点の20%	4 日常の学習状況	総合点の20%
1 授業への積極的参加	総合点の20%										
2 期末試験	総合点の40%										
3 課題レポート	総合点の20%										
4 日常の学習状況	総合点の20%										
12. 受講生への メッセージ	常に新聞・テレビ・ネット・雑誌などマスメディアに関心を寄せてほしい。社会事象である非行や犯罪問題について、その心理学的背景を考える習慣を積極的に身に付けてほしい。										
13. オフィスアワー	初回の授業開始時に担当教員からお知らせする。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	オリエンテーション—犯罪とは何か、犯罪と刑罰の歴史、凶悪犯罪は増えているか	事前学習	各受講生1例ずつ最近印象に残った犯罪について調べる。								
		事後学習	個人又はグループで発表する犯罪事例について調査・研究・取りまとめの計画を立てる。								
第2回	司法・犯罪心理学の実践を学ぶ	事前学習	テキスト序章を精読して講義に臨む。								
		事後学習	序章について、学んだことを学習ノートにまとめる。								
第3回	犯罪とは？—犯罪・非行理論を概観する	事前学習	テキスト第1章を精読して講義に臨む。								
		事後学習	第1章について、学んだことを学習ノートにまとめる。								
第4回	犯罪・非行の実態—日本の犯罪・非行の状況を知る	事前学習	テキスト第2章を精読して講義に臨む。								
		事後学習	第2章について、学んだことを学習ノートにまとめる。								
第5回	日本の刑事政策—犯罪・非行を起こした人はどうなるのか？	事前学習	テキスト第3章を精読して講義に臨む。								
		事後学習	第3章について、学んだことを学習ノートにまとめる。								
第6回	警察の中での心理学・心理職—専門性を活かすために	事前学習	テキスト第4章を精読して講義に臨む。								

		事後学習	第4章について、学んだことを学習ノートにまとめる
第7回	家庭裁判所——少年と家庭の将来を見据えた司法的解決を目指して	事前学習	テキスト第5章を精読して講義に臨む。
		事後学習	第5章について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第8回	修復的司法の取り組みについて	事前学習	テキスト第3章のコラムを精読して講義に臨む。
		事後学習	修復的司法の取り組みについて、学んだことを学習ノートにまとめる。
第9回	矯正—施設内処遇から社会復帰へ—	事前学習	テキスト第6章を精読して講義に臨む。
		事後学習	第6章について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第10回	更生保護—地域社会における指導と支援—	事前学習	テキスト第7章を精読して講義に臨む。
		事後学習	第7章について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第11回	児童福祉—少年非行と児童虐待が交錯する臨床の最前線—	事前学習	テキスト第8章を精読して講義に臨む。
		事後学習	第8章について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第12回	犯罪者と犯罪性のアセスメント—再犯の可能性を予測する—	事前学習	テキスト第9章を精読して講義に臨む。
		事後学習	第9章について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第13回	行動変容—嗜癖・依存への心理学的アプローチ—	事前学習	テキスト第10章を精読して講義に臨む。
		事後学習	第10章について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第14回	司法面接—司法場面における子どもへの面接と多職種の協働—	事前学習	テキスト第11章を精読して講義に臨む。
		事後学習	第11章について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第15回	犯罪被害者支援と援助者の二次的外傷性ストレス——犯罪被害者等の現状と実践的アプローチ	事前学習	テキスト第12章を精読して講義に臨む。
		事後学習	第12章について、学んだことを学習ノートにまとめる。
期末試験			